

トランス
ピ
ラ
ン
ス
部
サ
ー
中

木質専焼 6700 kWが完成

営業運転を開始

中部電力子会社の中部プラントサービスが建設を進めていた木質バイオマス発電所「多気バイオパワー」が完成し、6月27日から営業運転を開始した。7月15日に竣工式を開催。年間約6万5000トンの木質チップを活用する。内訳は、製材



多気バイオパワーが稼働開始

端材や工事支障木等の一般木材を8割、林地残材等の山林未利用材を2割予定している。発電出力は6700キロワットで、年間の総発電量は約5000万キロワット時を想定。化石燃料による発電と比べ、年間のCO₂削減量は2万6000トンに上る。

ボイラーメーカーは三菱日立パワーシステムズインダストリーとした。同発電所の建設地は、三重県多気町の工業団地「多気クリスタルタウン工業ゾーン」で、敷地面積は約8800平方メートルに上る。破碎設備は同所に併設せず、燃料はチップの状態を調達。3日分(約600トン)のス

トックヤードを設けた。燃料調達において、同社は今年4月、三重エネウッド(三重県松阪市)と木質バイオマス燃料調達共同企業体「三重バイオマスJ.V」

を設立。三重エネウッドは、2014年11月から松阪木質バイオマ

ス発電所(出力5800キロワット)を営業運転している。共同企業体を通じて、両発電所で使用する年間15万トン程度の間伐材や工事支障木などを対象に、原木やチップの収集、備蓄、乾燥、燃料化、輸送等を効率的に行う。

発電を通じ発生する焼却灰は、三重大学との共同研究で資源化を進めており、廃熱についても活用できないか検討中だとした。同社担当者は、「安定した運転で林業活性化や山主への還元、地域貢献に努めたい」と話した。